

《 むすびに 》

春は花夏ほととぎす秋は月
冬雪さえて冷（ずず）しかりけり

道元禅師が詠んだ四季の美の歌です。日本仏教では山川草木に仏性が宿っていると説き、日本の伝統的な民俗信仰でも「八百万神」と言い、自然が畏き存在とされてきました。

一方で、環境先進国ドイツ、カールスルーエ市では「ビオトープ（Biotop）」の概念で緑化政策を行っています。ビオトープはギリシャ語の「Bios（生命）」と「Topos（場所、空間）」を組み合わせたドイツの造語で、広く解釈すれば、「地球」「森林」など固有の生態系が保たれている空間です。「1本の木」にも小動物・鳥・昆虫が棲む固有の生態系があり、「1枚の木の葉」にも生態系があります。

『環境先進国ドイツの今』は、松田雅央氏が環境政策の先進地方自治体カールスルーエ市の取り組みを著書にしたものです。氏は、日本の地方自治体が環境政策に取り組むには、長期展望と実行力が重要であると指摘し、次のように結んでいます。「不遜を承知で書かせていただくと、日本の地方自治体に求められるのは「良識を持った政治家」「スペシャリストとしての自治体職員」「実力のある市民団体」を育てること。遠回りのようだが、それが環境と調和した魅力ある地域づくりへの近道ではないだろうか。」

私自身も肝に銘じてまちづくりに励んでまいります。住民の皆さま、並びに議員各位におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の令和4年度施政方針とします。

—令和4年度施政方針より—



12月28日に行われた三芳町議会の冒頭で、町長が施政方針を表明しました。

施政方針の詳細は、町のホームページをご確認ください。



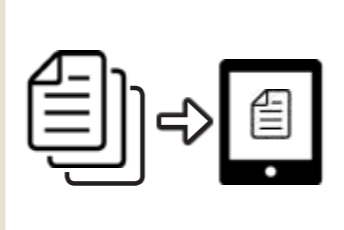
申請手続の簡素化 住民サービス向上

マイナポータルを利用した申請、電子申請・届出サービスの対象手続の拡大で申請手続を簡素化します。また、感染防止、利便性向上のため証明書等発行時の支払いでキャッシュレス対応とセミセルフレジを導入します。



行政事務の効率化 資源・コストの削減

庁内のペーパーレスシステムを本格運用し資源やコストの削減等を進め、新技術の活用により行政事務の効率化を進めます。町と県及び法務局との通知を電子化するシステムを導入し、事務の効率化と税務のデジタル化を推進します。



障がい者福祉 共生社会の拠点に

三芳太陽の家は、障がい者の就労と生活を支える複合施設となりました。災害時の福祉避難所や重度障がい者のための特殊浴槽等の機能を備え、様々な障がいを持つ人や関係者の共生社会実現の拠点を目指します。



介護保険事業 共生のまちづくり

看護小規模多機能型居宅介護の令和5年度開設に向け、準備を進めます。また、認知症サポートセンターを中心に、「チームオレンジ事業」等の事業を実施し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指します。



保育所の環境整備 地域支援機能を向上

第三保育所は、医療的ケアが必要な子どもを福祉、医療用具等の整備と看護師配置により十分な体制で受け入れます。みどり学園では、昨年度設置した「児童発達支援センター」のサービスを活かし、さらなる利便性の向上につなげます。



ガーデンツーリズム 安心安全に外出を

住民が身近な緑を愛で日頃のストレスを発散し、安全安心に外出を楽しんでもらえるよう、町内ガーデン等の散策パンフレットや農業遺産に関連づけたイベントを計画します。計画を磨き上げることで、改めて国の認定に挑戦します。



施設の維持管理 バリアフリー化とコロナ対策

施設の維持管理や更新に多額の費用を要するため、「第1期アクションプラン」の見直しを行い、公共施設の総合管理を推進します。バリアフリーや新型コロナウイルス感染症対策として、スロープ・手すりの修繕や手洗いに自動水栓を設置します。



道路環境の整備 円滑な交通環境を

道路の維持補修は、調査を実施し個別舗装計画を見直しながら、円滑な交通環境を目指します。スマートICは、下り線側の町道上富69号線付替工事がおおむね完成します。関越道を跨ぐ東永久保1号橋歩道橋の上部工事も進めます。



令和の森公園 誰もが憩い、集い、楽しめる

緑地公園に「アスレチック」、せせらぎ水辺広場に「築山」、役場敷地内に「ドッグラン」を整備し、多目的広場に「バーベキューエリア」を設けます。また、公園内には花や樹木の植栽を計画的に進めます。



子ども食堂への支援 食堂間のネットワーク

新型コロナウイルス禍において厳しい状況におかれる子どもたちを支援し、支え合う子ども食堂への補助を行います。また食堂間のネットワークを図り、様々な人からの支援をすべての子ども食堂で享受できる仕組みを作り、事業の継続を支援します。



再生エネルギー利用促進 環境にやさしく

省エネルギーを推進するため住民の電気自動車等家用車の購入に対する補助を実施します。また、シェアサイクルなどの環境にやさしい交通移動手段を促進。さらに、太陽光発電システムの設置費用の補助を拡大します。



武蔵野の落ち葉堆肥農法 直接触れて感じる

他の申請地域とのシンポジウム等による交流、農業遺産とSDGsの関連性、農業体験等を実施します。また、農法の一端の見学としてさつまいも苗床の生態展示や年中行事の再現などで歴史や文化、季節の営みを紹介します。



避難時の備え 個別計画策定

避難所備蓄品の女性用使い捨て下着の整備と生理用品の更新とともに、使用期限等が到達する備蓄品活用のためのデータベースを作成します。また、避難困難な要援護者に対し「災害時要援護者避難支援プラン」の個別計画を策定します。



通学路の安全対策 車両通行状況を整理

昨年度、バス新路線の運行が始まった藤久保3区及び藤久保5区の通学路交差点等に交通安全啓発員を配置し、啓発活動を実施しました。今年度は、保護者からご意見があった幹線19号線の車両の通行状況等を整理し、安全対策を進めます。



公共交通 さらなる改善を

昨年度はライフバスの8番線が開通しました。今後も利用者の動向をモニタリングする中で、さらなる路線の改善を図ります。また、高齢者への補助金の拡充を図るとともに、免許返納についてもさらなる周知を行います。

